

# キャベツ栽培における育苗期灌注剤の処理時期の違いによる ネギアザミウマへの防除効果

川田 祐輔・大矢 武志（神奈川県農業技術センター生産環境部）

ネギアザミウマは体長 1.5mm 程度で小さく、ネギ類、タバコや、トマトなどのナス科、キャベツなどのアブラナ科、花き類、ナシやカキなどの果樹類を食害し、被害を与える。また、年に 10 世代以上発生し増殖率が高いため、農薬に対する抵抗性を発達しやすくなっており、最も防除が難しい害虫の 1 つにあげられる。近年、神奈川県内において育苗中のキャベツに対する食害が甚大になってきており、防除に苦慮している。

ネギアザミウマの薬剤防除は、育苗中の灌注処理が非常に効果的で有効であるが、育苗中のどの時期に薬剤処理したら最も防除効果が高くなるかは明らかになっていない。そこで、キャベツの育苗中にクロラントラニリプロール・チアメトキサム水和剤（ジュリボフロアブル）を、処理時期を変え処理し、その防除効果を検討した。

試験薬剤の処理方法は、200 倍、500ml /セルトレイで灌注を行った。供試品種は金系 201 号、は種は平成 24 年 5 月 14 日、定植は平成 24 年 6 月 7 日に行い、栽植距離は畝幅 20cm × 株間 20cm とした。薬剤処理は 5 月 14 日（は種時、定植 24 日前）、5 月 21 日（定植 17 日前）、5 月 28 日（定植 10 日前）、6 月 4 日（定植 3 日前）、6 月 7 日（定植当日）に行った。調査は 6 月 14 日（定植 7 日後）、6 月 21 日（定植 14 日後）、6 月 28 日（定植 21 日後）、7 月 5 日（定植 28 日後）に行い、中央 6 株について、ネギアザミウマの寄生頭数を幼虫、成虫別に調査した。調査結果から密度指数を求めた。なお、本種成虫は飛翔による移動性が高いため、防除効果は主に幼虫数の密度指数で判断した。

結果は、薬剤処理を実施すれば、概ね高い防除効果が認められた。より詳しく見ると、6 月 21 日の調査では 5 月 21 日と 6 月 7 日処理で防除効果が高く、6 月 28 日の調査では 5 月 28 日処理、7 月 5 日の調査では 5 月 14 日処理（は種時）で防除効果が高くなった。

以上のことから、クロラントラニリプロール・チアメトキサム水和剤の灌注処理は、必ずしも定植直前で防除効果が高いとは言えず、は種時処理のような薬剤灌注から定植までの期間が長い方がより有効と考えられた。なお、6 月 4 日（定植 3 日前）処理は処理区の中で全体的に低い防除効果となったが、これについてはさらに検証が必要と考えられる。